

刊行にあたって

白岡市は幸魂教舎のある久喜市に近いので、撫山が撰文した碑石・墓誌・掲額・書跡などが数多く残っていることがわかってきた。しかし、碑文などの内容の解説や意識についての詳細については未調査であった。そこで、平成24年10月の白岡市制施行記念事業として、教育委員会は白岡市内に伝わる中島撫山の作品を専門的な見地からの解説を早稲田大学名誉教授村山 廣（むらやま よしひろ）先生に依頼して訓読して語訳を付けていただき『中島撫山と白岡』の冊子を刊行した。

観光協会では、今回その作品のなかから撰文関連碑について、その所在地とその建立経緯などを掲載したリーフレットを作成した。なお、解説文の作成にあたっては、上記冊子を参考とした。このリーフレットを市内外の中島撫山ファンの皆様に利用していただければ幸いである。

中島撫山プロフィール

なかじま ぶざん 1829～1911

中島撫山は、儒者亀田鵬斎の門流で明治最後の儒者と目された第一人者である。また『李陵』や『山月記』などの作品を残した作家中島敦の祖父に当たる人である。幕末から明治にかけて、漢学と国学を教えた学者であり皇漢学者と言われた人である。

撫山は、文政12年（1829）に江戸日本橋（現在の中央区堀留町）の商家中島清右衛門の長男として生まれた。幕末から明治の動乱の江戸を嫌い、明治2（1869）年12月に現在の久喜市に移り住んだ。そして、同6年に現在の久喜市久喜中央に私塾の幸魂教舎（さきたまきょうしゃ）を開き、この地方の若者達に名誉や利益を求めず、時流に迎合することなく、人としての道を教え、塾生を熱愛しその訓育を生涯の仕事とした。明治44年に83才で亡くなるまでにこの地方の若者達千数百人を教育し、白岡市域にも37名の塾生がいた。

中島撫山の撰文関連碑について

市内にある記念碑は、種類は碑石（記念碑）が4基と墓誌が5基建立されている。また、三男竦（しょう）が撰文した碑石が白岡八幡神社境内に存在している。市域に存在する撫山の記念碑数は、久喜市に次いで多い。そして、この地域で中島撫山が撰文した最初と最後の碑石が当市にあるのが特徴である。

最初のものは、明治5年（1872）建立の岡泉観音堂「百体庚申之碑」である。これには、百体の「庚申」という文字が全て異なる書体で書かれたことが記されている。

最後のものは、明治43年（1910）に建立された白岡駅西口の「新設白岡車站之記」である。この碑文には、白岡駅が出来たことにより白岡八幡神社にお参りに行きやすくなったこと、白岡の産物を輸送するのに大変便利になったこと、しかし交通の便が良くなったので色々な人が入り込み風俗が乱れるので注意する様にとのことが記されている。

なお、碑ではないが白岡八幡神社に奉納されている田宮流神田道場の扁額も撫山によるものなので紹介する。



中島撫山 年譜

写真提供：久喜市公文書館

年齢	西 暦	和 暦	年 譜
1	1829	文政 12	4月12日、江東亀戸大祖父隠宅に生まれる。
14	1842	天保 13	句読を受けた出井貞順に薦められ亀田綾瀬門下生となる。
25	1853	嘉永 6	4月14日、亀田綾瀬没。これより亀田篤谷に師事する。
29	1857	安政 4	祖父勇哲逝去。家産を従弟に与え、12月に妻子弟妹を連れ両国矢ノ倉に遷居する。
30	1858	安政 5	正月13日、「演孔堂」を開講。
31	1859	安政 6	8月、綾瀬の先輩である新井大年（稻亭）没。大年の門人に請われ、大年が開塾した神田阿玉ヶ池に移る。
35	1863	文久 3	関宿に赴き藩学教諭館で篤谷の代講、藩主に謁す。
38	1866	慶応 2	新井大年の子新井和郷（桐蔭）没。和郷の弟子等に請われて弟子の一人である大場村（現春日部市）の大垣氏宅に赴き講義する。
40	1868	明治元	大政奉還後、鹿室にある新井和卿（桐蔭）の旧宅に移る。
41	1869	明治 2	正月、亀田篤谷が関宿にて拘禁されたため、手を尽くし8月に禁を解く。12月、久喜へ遷る。
44	1872	明治 5	戸籍令が頒布され、戸籍を久喜に置く。
45	1873	明治 6	8月、神道教導少講義に補せられる。自宅に「幸魂教舎」を開く。
48	1876	明治 9	塾の生徒が増え、「幸魂教舎」一室を増築。秋に栃木行き。
52	1880	明治 13	靖（綽軒）、栃木に私塾「明誼学舎」を開く。
70	1898	明治 31	この年より私印を刻し「七十日老」と。年を紀し、70以上の証しとする。これを祝って4月弟子たちが、寿宴を開く。
72	1900	明治 33	秋、栃木に遊ぶ。思いもかけず眩暈と嘔吐の症状で数日臥す。これ以降この症状を繰り返す。
77	1905	明治 38	4月、病に臥す。癒えて常陸平磯に遊ぶ。
78	1906	明治 39	5月、杉陰逝去。6月、靖（綽軒）逝去。
80	1908	明治 41	撫山 80歳。
81	1909	明治 42	秋、久喜本町から久喜新町に移る。
82	1910	明治 43	5月、新設白岡車站之記を撰文。夏、伊勢神宮を拝す。
83	1911	明治 44	病むこと僅か10余日、6月24日にわかに逝去す。

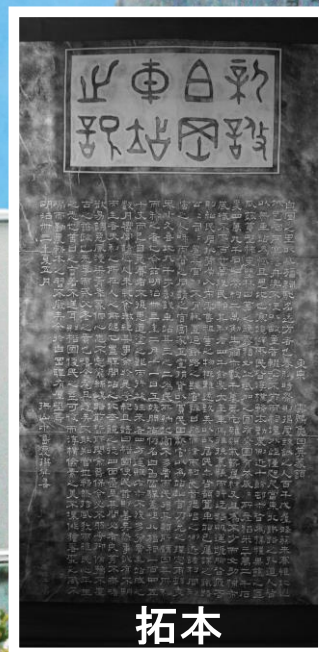
碑等の所在地

NO	碑 石 名	所 在 地	建立年代
①	百体庚申之碑	白岡市岡泉観音堂	明治 5年(1872)6月
②	新設白岡車站之記	白岡市小久喜白岡駅西口	明治 43年(1910)5月
③	報国（墓碑）	白岡市下大崎住吉神社	明治 39年(1906)11月
④	紀功之碑（日露戦争出征者凱旋記念碑）	白岡市下大崎住吉神社	明治 39年(1906)8月
⑤	墓碑	白岡市荒井新田釈迦堂墓地	明治 33年(1900)3月
⑥	超俗（墓碑）	白岡市荒井新田釈迦堂墓地	明治 41年(1908)10月
⑦	墓碑	白岡市荒井新田釈迦堂墓地	明治 25年(1892)12月
⑧	栄賜（墓碑）	白岡市柴山観音堂	明治 42年(1909)3月
⑨	柴山伏越改造之碑	白岡市柴山伏越	明治 20年(1887)4月
⑩	新修八幡廟前殿記	白岡市白岡八幡神社	明治 28年(1895)9月
⑪	象剣匾額記	白岡市白岡八幡神社	明治 7年(1874)6月



白岡市白岡1172 電話/FAX 0480-92-8151
U R L www.shiraoka-kanko.info

発行日：平成29年2月



新設白岡車站之記
（白岡駅西口）

撰文：碑文などの文章を作ること

白岡市観光協会

白岡の中島撫山撰文関連碑等 位置図

